

再生・活性化を果たした商店街事例 No.27

ながはま御坊表参道商店街振興組合(滋賀県長浜市)

【取組の方向】 地元客中心の近隣型商店街から広域より集客する観光型商店街への転換

大通寺の門前町としてよみがえった商店街。店舗数28。

○商店街の置かれた状況。
以前は食料品を中心とする地元向けの近隣型商店街で、空き店舗が増加し衰退の一途をたどっていた。

○対応策
大通寺の門前町として再生を図るため、石畳の整備を行うとともに、空き店舗へのテナント誘致やさまざまなイベント等を積極的に実施。

- ・石畳・ファサード整備
- ・商店街の名称変更～CI事業
- ・駐車場の整備・運営
- ・地権者への家賃交渉
- ・大通寺馬酔木展
- ・表参道文化塾
- ・アートインナガハマ
- ・ゆかたまつり

○状況変化
黒壁方式というダイナミックな事業展開や様々な事業主体の空き店舗活用等の効果により、広域から200万人近くの観光客が黒壁周辺に訪れるようになった。

○具体的取組
これまで実施主体がバラバラであったイベントを1つの括りにまとめ、「花と灯りの参歩道(さんぽみち)」のテーマのもと、年間を通して「おもてなしの心を大切にした商店街」という統一的な方向性をもって活動した。

- ・馬酔木展、アートインナガハマ、ゆかたまつり、花と灯りのプロムナード、近世城下町ふるさとまつり等

○具体的成果

- ・中心市街地の商業エリア全体の回遊性が高まり、観光客がたくさん訪れるようになった。
- ・飲食店の出店が増え、空き店舗が減少してきた。
- ・事業を進めていく中で、商店街メンバーの結束力が強まった。

【地方自治体の取組】

市の補助金「長浜市にぎわいの街づくり事業補助金」を活用

【国等の支援】

国の補助金「地域商店街活性化事業補助金」の活用